

第62回（令和7年度） 九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会要項

1 参加校 別紙参照

2 主催 （主管校）都城工業高等専門学校
（担当校）鹿児島工業高等専門学校
（担当校）熊本高等専門学校（八代キャンパス）
九州沖縄地区国立高等専門学校体育連盟

3 期間 令和7年 6月21日（土）・22日（日）・28日（土）・29日（日）
令和7年 7月 4日（金）・ 5日（土）・ 6日（日）・ 9日（水）・10日（木）・
12日（土）・13日（日）・17日（木）・18日（金）・19日（土）・
20日（日）・21日（月）
令和7年11月 7日（金）・ 8日（土）・ 9日（日）
15日（土）・16日（日）・18日（火）

4 競技種目・競技会場及び試合開始時刻 競技種目別実施要項参照

5 開会式及び閉会式

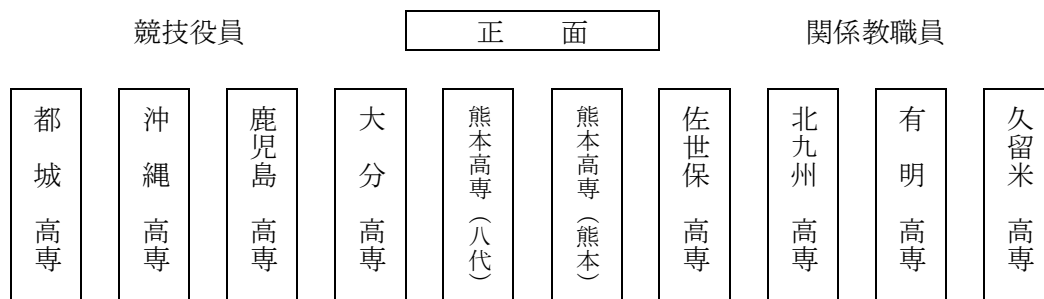
ア 開会式

- 1 役員選手集合
- 2 開式
- 3 開会宣言
- 4 国旗掲揚
- 5 大会旗掲揚
- 6 優勝杯返還及びレプリカ授与
- 7 大会会長挨拶
- 8 審判長注意
- 9 選手宣誓
- 10 閉式

イ 閉会式

- 1 役員選手集合
- 2 開式
- 3 成績発表
- 4 表彰
- 5 審判長講評
- 6 大会会長挨拶
- 7 国旗、大会旗降納
- 8 閉会宣言
- 9 閉式

ウ 開会式及び閉会式配列図



- （注）
- 1 正面に向かって、右側から構成校順に整列する。
ただし、担当校は左端に整列する。
 - 2 各会場とも開会式は、予定時刻30分前に指定された場所に集合すること。
 - 3 選手団の服装は、各高専で定められたものを着用する。
 - 4 開会式及び閉会式の式次第は総合的なものを想定しており、各競技の実態に合わせて変更可能とする。

6 参加資格 九州沖縄地区国立高等専門学校に在学する学生とする。

7 競技方法 競技種目別実施要項による。

8 表彰

- (1) 学校対抗（団体の部）の優勝校に優勝杯を、準優勝校に準優勝杯を授与し、1～3位入賞校に賞状を授与する。
- (2) 優勝杯及び準優勝杯は、それぞれ持廻りとする。
- (3) 前年度優勝校にレプリカを授与する。
- (4) 個人対抗（個人の部）の各種目の1～3位入賞者に賞状を授与する。

9 選手の変更

参加申込後の変更は、原則として認めない。

ただし、やむを得ない選手の変更については、監督会議において承認を得るものとする。

10 監督会議

競技種目別に定められた日時及び場所で行う。

出席者は、監督及び学生代表を原則とし、詳細は競技ごとに定める。

11. 全国大会出場資格

本大会において、次に該当するものは第60回全国大会の出場権を得るものとする。

- (1) 陸上競技は、この大会における男子3位、女子2位までの入賞者は、全国高等専門学校体育大会への出場権を得ることになる（ただし下記（2）の種目は除く）。男子は1人2種目以内（リレー種目は除く）。男子リレー種目は2位までの入賞チーム及び有効期間内における公認記録の全国上位8チームとする。女子は下記（2）の種目を含め2種目以内（リレー種目は除く。）とする。
- (2) 下記の種目は、標準記録を設け、以下のような選出方法を行う。
男子：400mH 59秒00、3000mSC 10分30秒00
女子：200m 28秒60、3000m 12分00秒00、100mH 17秒90、4×100mR 56秒00、
走高跳 1m40、円盤投 23m00、やり投 25m00
男子400mHは有効期間内の公認記録上位24名以内、3000mSCは同16名以内とする。女子個人及びリレー種目は、有効期間内の公認記録上位16名以内及び16チーム以内とする。
- (3) 陸上競技における公認記録の有効期間については、全種目とも2025年4月1日から2025年7月30日までとする。
- (4) 陸上競技のトラック種目における全国大会出場枠の最下位に同着が複数出た場合、再レースを実施することがある。
- (5) 水泳は各種目別上位男子3位、女子2位までの入賞者とする。ただし、リレー種目は上位入賞2チームとする。また、男子400m自由形及び男子800m自由形は先の順位条件を満たすと共に参加標準記録を突破（同タイムも突破となる）した者に限る。
- (6) 硬式野球、バスケットボール（女）、テニス（女）、バトミントン（女）、バレーボール（男）（女）、ソフトテニス（男）（女）、卓球（女）、剣道（女）については、それぞれの優勝チームのみとする。
- (7) バスケットボール（男）、テニス（男）、バトミントン（男）、サッカー、卓球（男）、剣道（男）、ラグビーフットボールについては、上位入賞2チームとする。
- (8) ハンドボールは、決勝リーグに進出した上位入賞3チームとする。

- (9) ソフトテニスにおける個人戦は、上位入賞者男子ダブルス 3 組、女子ダブルス 3 組とする。
- (10) 卓球における個人戦は、上位入賞者男子シングルス 2 名、女子シングルス上位 2 名以内、男子ダブルス 2 組、女子ダブルス 2 組以内とする。
- (11) 柔道における団体戦は、5 人制は優勝チーム、3 人制は 5 人制優勝チーム以外の上位 3 チーム以内とし、個人戦は、級別上位入賞者男子 2 名、女子 3 名以内とする。
- (12) 剣道における個人戦は、上位入賞者男子 4 名以内、女子 3 名以内とする。
- (13) テニスにおける個人戦は、上位入賞者男子シングルス 2 名、女子シングルス 2 名、男子ダブルス 2 組、女子ダブルス 2 組とする。
- (14) バドミントンにおける個人戦は、上位入賞者男子シングルス 2 名、女子シングルス 2 名、男子ダブルス 2 組、女子ダブルス 2 組とする。
- (15) 開催校枠を保持している全国開催校のチーム・選手が上記規程の順位内に入った場合、ハンドボール、バスケットボール（女）、バレーボール（女）、卓球（女）、バドミントン（女）を除いた競技については、上記規定の順位の 1 つ下の順位に入ったチーム・選手（複数該当する場合はその中から代表決定戦により選出されたチーム・選手）も、全国大会への出場権を得るものとする。
- (16) ハンドボールにおいて、開催校枠を保持している全国開催校のチームが上記規程の順位内に入った場合、各予選リーグ 2 位のチームで 4 位決定リーグを行い、当該リーグ戦の上位 1 チームも全国大会への出場権を得るものとする。
- (17) 地区代表として 1 名も選抜されなかった学校は、その学校の最も優れた選手を開催種目の個人競技種目（リレー種目を除く。）のいずれか 1 種目に、1 名又は、1 組を出場させることができる。

12. その他

- (1) 担当校は、大会の運営について競技上の事故防止等に十分配慮すること。
- (2) 担当校は、気象警報発令時及び災害発生時においては、競技参加者及び大会関係者の安全を第一として競技実施の有無その他対応について判断し、決定した内容について速やかに参加校ほか関係機関に連絡することとする。各参加校においても、学校内の連絡先を点検し、連絡体制を確立しておくこととする。
- (3) 競技中の負傷については、各担当会場校で応急処置を施すが、その後の処置は参加校で行うものとする。
- (4) 選手は、医療機関の受診に備え、マイナ保険証等を必ず持参すること。
- (5) 高専学生として品位と節度のある応援を行うこと。